

喜多原だより

NO. 69

平成28年4月



「人生、山あり、谷あり、喜多原あり」

喜多原学園次長 山本 宗伸

平成二十七年年度の人事異動で学園勤務を命じられてから一年が経とうとしています。この原稿を書いているのは三月、卒業式のシーズン。学園でも、小・中学校生活を終え、あらたな旅立ちを見送る季節となっております。

着任以来、十一名の新入児童と出会い、現在十五名の児童と共に日々を過ごしています。

「卒業を迎えられる皆さん、人生山あり、谷ありと申します。これから先、艱難辛苦が降りかかるうとも、強い心を持って立ち向かっていって下さい。」卒業式の中で、よく使われる言い回しではありますが、学園にやってくる児童は、それこそ、「人生最悪だ。」

「谷も谷、谷底まで落ちた。」と感じて学園にやってきました。人生の山・谷を年若くして体験しているといえます。

ところがどうでしょう。学園生活を一年間経て、退所を迎えようとする頃には、すっかり失意の谷から脱却し、新たな山でも登ろうかとの意欲あふ

れた輝きを宿す存在へ変貌を遂げてゆきます。

学園職員がそれぞれの子に寄り添い、失敗しても我慢強くつきあい、谷での過ごし方、目の前にある山の乗り超え方を、ともに歩を進め、前からひっぱったり、後ろから押ししたりしてきた結果なのです。先達の教え、「withの精神」が確かに受け継がれているのを実感しています。

自主自立する力を身につけることは容易なことではありません。非行性の改善も一朝一夕で成るものではありませんが、少なくとも学園で一年間を過ごすことで、癒やされていく姿や、自信を取り戻してゆく様子が職員モチベーションを支えてくれます。

在園期間の一年間でできることはそう多くはありません。学園退所後の文字通り山あり谷ありの人生の中でもみくちやにされてしまう事もあります。そういった苦難の時にこそ、弱音やSOSを言うことのできる学園としてあり続けるべきだと思えます。

「人生、山あり、谷あり、

喜多原あり」

五郎丸ポーズについて

喜多原学園長 馬詰 俊哉

平成二十七年年度の出来事の中で、ラグビー日本代表の活躍が大きな話題となり、中でも五郎丸選手のキック前に見せる恒例のポーズは世界的にも大変注目を集めました。

あのポーズの意味は、ルーティンと呼ばれるものの一つで、野球選手のイチローがバッターボックスに入り、構えるまでにバットを片手に掲げ左手で右肩の袖をつまむなどの仕草を見せるものと同じで、他の有名スポーツ選手も知られていないだけで、結果を出している選手は全員といても過言ではないくらいルーティンを持っています。

ルーティン（試合でのミスを防ぎ、集中力を高めて良い結果を出そうとする方法の一つ）は、良い結果を出すための儀式のようなものです。ふだんの練習から同じことを繰り返すことで、脳や身体に動きを覚えさせ、そして習慣化した動きを試合でも行うことで、日常を思い出し、精神を安定させることが出来るのだそうです。

五郎丸選手のキック成功率はそれまで50〜60%だったものが、あ

のポーズが定着してからは80%以上にまで上がったそうです。

皆さんも、野球やバレーボールなどスポーツに取り組むときに、バッターボックスで、そしてサーブを打つ前に、自分なりのかっこいいルーティン動作を考え出してやってみてはどうでしょうか？。きっと成功率がアップできると思いますよ。

もちろん、ルーティン動作の練習ばかりしていても結果は得られませんので、目的のための練習も、もつともっと真剣に、真面目に、一生懸命取り組むことが必要だということも忘れないでくださいよ。



厚生労働大臣表彰を授与して

喜多原学園 女子寮寮長 石田 良宏

平成二十七年九月三十日付で、厚生労働大臣表彰（永年勤続表彰）を受賞しました。

これもひとえに喜多原学園の諸先輩方や鳥取県の福祉関係者及び『県外の教護院の諸先輩』等多くの方々のご指導ご支援のたまもので有り、感謝しております。

昭和五十九年十二月に喜多原学園に赴任し、園内居住をしながら児童と共に生活してきた四半世紀は、私の大きな財産で有り、誇りです。

『流汗悟道』『一路到白頭』『with the 精神』等々、今は『児童自立支援施設』と名前は変わりましたが、『教護院』時代の『教護魂』で児童と共に生活や教育を共にしながら、子どもと共に学び成長できたことは、両親から与えられた健康な身体があったからこそだと思います。健康で丈夫な身体に育ててくれた両親や姉兄に・・・また、迷惑や寂しい思いをさせた家族に感謝・感謝・感謝!!。

これからも『出逢い』を大切にして、日々精進し、更に度量をつけて、子どもと共に生活をしながら児童福祉の支援に邁進していきたいと思えます。

スポーツ活動

中国少年野球大会

監督 男子寮 安井 泰斗

今年の大会は山口県のきらら博記念公園で行われました。参加した児童は8人で惜しくも1人足りずオープン参加となりましたが、チーム一丸となって戦いました。試合については惨敗して帰ってきたのですが、普段の様子からはうってかわって弱音ひとつ吐かずに、「大丈夫です。」と最後まで力投したピッチャーの児童をはじめ、チームをまとめひたつぱったいつもはイタズラメーカーのキャプテン、そして他のチームの声出しに驚きおびえながらも踏ん張った全児童。本当によく頑張りました。余談では台風のため2日目で大会が切り上げられ、台風に追いかけられながら鳥取県に舞い戻ったのも思い出です。

この文章を書いている平成28年3月現在、ともにひと夏汗を流した彼らの大半が卒業をむかえ、それぞれの進路にむけて巣立っていきました。今振り返っても、いつも甘えがぬけない

彼らでしたが、土壇場のやるしかないあの場面を乗り越えた経験は、彼らを大きく成長させたように思います。少し大人になった表情を浮かべて羽ばたいていった彼らの進む道に幸多きことを祈って、来年度の野球に向けてグラウンド整備をはじめます。

野球大会の思い出

男子児童作文

僕は、この大会で一塁を守りました。最初はレフトだったけど一塁に変わって覚えることが増えて難しかったです。

でもみんなのために、少しでもうまくなろうと思いがんばりました。試合では、練習どおりにうまくできませんでした。

2日目は台風のため午前中だけ試合がありました。本当なら2泊3日だったけど1泊2日になって残念でした。

でもみんなと協力して野球したことは僕の大切な思い出です。



中国女子児童バレーボール大会

監督 女子寮 奥田 麻菜

女子寮では、毎年バレー部を結成し秋の大会に向けて練習をしています。私は、監督として部員3名とバレーボール大会に参加しました。部員数3名の私たちにとって、順位争いに参加できる正式参加するには、他県のチームと組んで合同チームとしての出場しありませんでした。

今年のバレー部は、という練習で声が出せず、基礎練習よりも試合形式の練習を希望、寮の生活が不安定なこともあり、なかなか実のある練習ができなかったように思います。正式参加をして順位を意識して戦ってほしい、でも、状態があまり良いとは言えない我がバレー部が他県の子と一緒にチームを作ることができるのだろうか・・・そんな葛藤がありました。しかし、参加方法について部員から出たのは、「メダルがほしい」「合同チームでも良い、正式参加がしたい」という言葉でした。その思いを受けて今年は島根県のかたけ学園と合同チームとして出場することになりました。一緒に練習できたのはほんの数回でしたが、わかたけの生徒さんの声の大き

さや動きの良さに圧倒され「あんな練習しないといけないね」と子どもと振り返る日々でした。合同チームになってから練習方法も変わり少しずつ大会を意識して動いたり声をだしたり良い変化が見られ始めました。

そして大会当日、子どもたちは大会の空気に触れると今までどこに隠していたのだろうと思うほど積極的に動き、ボールに対し最後まで食らいついていきました。合同チームのため同時に2名しかコートに立てず、ベンチにいる子が「早く出たい!」「今のボール取れたのに!」と前のめりになって応援している。同じチームメイトなのにハイタッチできなかった子がミスした子の元に走って行く。声が出なかつた子の声が聞こえてくる。コートの外にボールが出ると一目散に追いかける。みんな生き生きした表情でコートに立っていました。最初は緊張でガチガチだった子がサーブを決め、チームメイトから声をかけられて徐々に笑顔になりました。チームの力、子ども同士で高め助け合う力を目の当たりにした時間でした。

試合では残念ながら勝つことはできませんでしたが、正式参加することができ本当に良かったと思います。

「勝ちたい」という気持ちがあり、同じ気持ちのチームメイトがいたからこそあの姿を見せてくれたのだと思っ
ています。もっと早くあの子どもたちの闘争心に火をつけることができたらし
…と考えてしまいますが、大会出場を
通して「頑張るって良いことなんだ」
と子どもたちが感じていてくれたら
嬉しいですね。正式参加の機会を下さっ
たわかたけ学園さん、日々の練習に参
加していただき指導してくださった
先生方、職員の皆様には感謝しています。

バレー大会の思い出

女子児童作文

私が喜多原学園で心にのこっているのは、バレーでキャプテンになってバレー大会に出たことです。私はもともと、体を動かすことが好きで自分からキャプテンに立候補しました。なので、キャプテンになれた時はすごく嬉しかったんです。その日からキャプテンとしての練習が始まって、最初はど
やうやって仲間をまとめたりするのかわからなかったけど、職員の人たちが色々と考えてくれたり、アドバイスなどをくれたりしました。そのおかげで

上手にまとめられるようになって、周りの仲間もついてきてくれるようになりました。

バレー大会の日が近づいてくるたび、バレー部のみんなのバレーにたいする思いも少しずつ変わってきたのがわかりました。なので私は、もっともっと頑張らないといけないなと実感しました。そして、バレー大会の本番では、人数がたりなかったの
で、ちがう学園と組んで合同チームとして出場しました。本番なので私自身もす
ごく緊張しました。周りのみんなもす
ごく緊張していました。試合が始まると、絶対にミスしたくないというみんなの気持ちですごくく伝わってきました。それで、何試合かしました。結果的には負けてしまいました。くやしくて泣いている仲間もいました。私は、その人たちを見てキャプテンなのにキャプテンとして何もできてなかったとすごく悲しくなりました。でも、結果どうであれ、本気で挑戦したのは本
当の事なので、今くやしがつて泣くなら来年は喜多原が必ず優勝して、お
もいっきり笑えるようにこれからみんなと頑張っていけばいいんだと思
いました。なので今年のバレー大会は

喜多原学園が優勝をもらいます。必ず、絶対優勝します。

最後に、私は初めて「キャプテン」という立場になって、チームプレーの大切さやくやしさをバネにするということを学びました。私はこのバレーでの体験、思い出がこの先何かの形で自分の役にたつと思います。あと、バレー大会すごく楽しかったです。



中国地区児童駅伝・マラソン大会

監督 男子寮 藤原 敦

平成二十七年十一月六日に鳥取県西伯郡南部町にある緑水湖周辺道路にて、第十五回中国地区児童駅伝・マラソン大会が開催され、喜多原学園からは駅伝の部に五人（一チーム）、マラソンの部に四人の児童が参加しました。この年の駅伝の部は、山口県立育成学校が突然の不参加を表明されることがありましたが、岡山県立成徳学校が四チームを編成して参加され、合計で七チーム（オーブン参加の愛媛県立えひめ学園を入れると八チーム）での競技となりました。

毎年、走ることに苦手意識があり自信をもてない子や、本気を出すところを周囲に見せるのを避けたがる子の中にはいますが、職員も一緒に走ったり声をかけたりしながらタイムを計り続けることで、子どもたちも徐々に自分のペースをつかみ、目標タイムを意識して走るようにはなっていました。

本番では、駅伝の部は中国地区七チーム中で四位となりましたが、走り終えた後に倒れこんでしまうほど一生懸命走る姿を見せるこの大会は、いつ

も感動をおぼえます。来年度は、比較的近い島根県での開催予定なので、ぜひまた応援をしてあげてほしいと思います



駅伝大会の思い出

男子児童作文

去年の秋、駅伝大会がありました。9月頃から練習がはじまり、約2か月間ほぼ毎日練習をして、最初は、8分台だったけど、どんどん速くなって、本番では、2kmより少し長かったけど、7分16秒というタイムが出たので良かったです。しかも、と中に順位を1つ上げたので良かったです。全体では、4位で前回の順位よりも、1つ上がったけど、みんな良い走りが出ていたので良かったと思います。今年もし駅伝に出たら、7分台で走れるようにがんばりたいです。



園遊会

〔児童生活支援員〕

男子寮 遠藤 翔吾

喜多原学園では年に2回外部の方をお招きし「園遊会」という行事を開催しております。日頃お世話になっている方々をお招きし、感謝の気持ちで伝えたり子どもたちの成長した姿を見ていただいたりすることを目的としています。昨年度は、秋の園遊会で「ぶち合わせ太鼓」を披露し、お越しいただいた皆様から「格好良かったです。」「感動しました。」などとたくさん感想をいただきました。園遊会での模擬店は、接客経験のない子ども達にとって未知の世界であり、中には「やりたくないです。」「と逃げ出そうとする子どももいます。職員と一緒に準備や接客練習を行うなかで気持ちがあっさり園遊会に向き、そして本番では練習以上の力を発揮する子ども達。「やればできる」をしっかりと証明してくれそうです。個々に到達点は異なりますが、「少し声が大きく出せるようになった」、「初めて注文がとれた」という、子どもにとっても自信をつけ



る場となっています。店舗紹介や接客、ステージ発表などを通して達成感や充実感を味わったり、時には意見をぶつけ合ったり…そして、少しずつ成長していく子ども達です。園遊会が終わると、「子ども達からは「疲れたー!」「忙しかったー!」「やっぱり恥ずかしい!」「〇〇(メニュー)が人気で良かったです!」等と様々な感想が聞かれます。また、園遊会はちょっとした仕事体験にもなっているようで「本当の飲食店って毎日こんなに忙しいんですよね?大変だ…」などと感想を口にする子どももいます。

毎年多くの方に御来園いただき、児童、職員共に大変嬉しく感じております。今年も皆様の御来園を心よりお待ちしております。

平成27年度 喜多原学園の1年間

- | | | | |
|----|---------------------------|-----|--|
| 4月 | 着任式 観桜会 始業式 遠足 | 10月 | 中国女子バレーボール大会(島根) |
| 5月 | 芋の苗植え交流(こたか保育園) | 11月 | 園遊会 中国児童駅伝・マラソン大会(鳥取)
芋ほり交流(こたか保育園) |
| 6月 | 園遊会 修学旅行 | 12月 | 車椅子バスケ 保育交流(こたか保育園) 終業式 |
| 7月 | 中国少年野球大会(山口)
フール開き 終業式 | 1月 | 始業式 フットサル交流 |
| 8月 | 保育交流(こたか保育園) 海水浴 | 2月 | スキー教室 |
| 9月 | 始業式 | 3月 | 卒業を祝う会 卒業証書伝達式
修了式 離任式 |



遠足(花回廊)



観桜会(雨天)



修学旅行



更生保護女性会との交流



海水浴





フットサル交流



保育交流



餅つき



車いすバスケット体験



スキー教室



お菓子作り



新任職員より…

【現業技術員 中嶋 史】

27年4月に県立喜多原学園に異動になり少し不安でしたが学園職員、分校職員の皆様方によくして頂き今日までできました。

やはりこちらに来て感じたことは、第一に児童の事を考えなくてはいけないことです。そのために児童が毎日安心して過ごせるように学園まわりの除草、整備また公用車で運転時にも声をかけたりして児童に不安がらせないようにがんばっています。また年2回の園遊会という行事があることです。これは日頃お世話になる方々に感謝する事だそうで、児童も一生懸命練習をしていました。

一番の出来事は、中国少年野球大会で、児童が普段見せない行動や声を掛け合いながら自然にコミュニケーションがとれ一生懸命練習をしていましたし、職員との一体感もあり大変良かったと思います。児童にとつてもいい経験だったはずですし、普段私とはあまり接することが無く話さない児童もよく話しかけ生き生きとしていました。私自身応援をし、「頑張れ」

と声を張り上げ気合いが入っていましたし児童からも話しかけられ距離感が縮まったようでした。

最後に私事ですが、趣味で大会に出場した際、児童も応援に来てくれてありがとうございました。大会では惨敗でしたが自分に負けずに何度も出場していますし、これからも児童にも何事にも目標を持って自分に負けないように頑張つて頂きたいです。

【係長 女子寮 保坂 葉子】

6年ぶりに学園勤務となり、懐かしさと新しい出会いへの期待と少々の不安を抱きながら異動した4月。年を重ねた分、ローテーション勤務になかなか慣れず体調不良となりました。が、徐々に、以前のことを思い出しながら自分の得意な分野を活かしながら児童とも、職員とも関係を築くことができ、気がつけば1年が経とうとしています。

「優しさ」のなかにも「厳しさ」を、「厳しさ」のなかにも「優しさ」を持ち続け、常に児童に寄り添い、温もりある関係を育んでいきたいと思っています。

今後とも、よろしくお願いいたします。

【児童自立支援専門員

女子寮 尾澤 理子】

平成27年4月に米子児童相談所から異動してきました児童自立支援専門員の尾澤理子です。

私は、5年間、児童相談所に併設されている一時保護所において、子ども達の支援を行ってきました。その中で、私が感じたことは、子ども達はそれまでの適切とは言えない養育環境の中で、子ども達なりに精一杯生きていくことに向き合っているということです。それまでの養育環境が要因で、身体的にも精神的にも、本来ならば獲得できるはずのものを十分に獲得できていないまま、生活し続けなければならぬ、子ども達にとっては今生きている世界がとても生きづらいものになっているということでした。

近い将来、社会に出ていく喜多原学園の子ども達の生きづらさが少しでも軽くなるように、また、見える景色が少しでも心地良く感じられるものになるように、心を育てる生活支援をしていきたいと考えています。よろしくお願ひします。

【児童生活支援員

男子寮 中田 力登】

皆成学園から喜多原学園に異動になり1年が経過しました。最初は自分よりも学園生活の長い子ども達との関係作りが難しく、どのように振舞えばいいのか悩むところが多くありましたが、子ども達と一緒に授業を受けたり、作業や運動をしたり、季節ごとの行事を楽しむなかで少しずつ自分なりの子ども達との関係もでき、ようやく寮の一員として馴染んできたような気持ちです。

時折、子ども達から「大人なんて信じられない。」という言葉が投げかけられることがあります。よくよく振り返ると、その言葉の本質には「信じられない大人と出会いたい。」という基本的な欲求が含まれていることに気づきます。子ども達からみて“信じる”に値する大人になれるよう、一人ひとりの子どもにも素直な態度で向き合っていきたいと感じています。



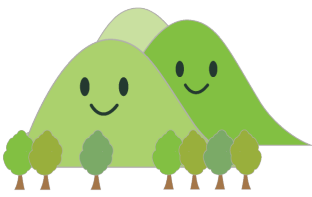
【児童自立支援専門員

女子寮 大石 紗希】

平成27年4月から喜多原学園での勤務が始まりました。寮のことが分からない私にいろいろと教えてくれたり、運動や作業を頑張ったり、児童の良いところ、がんばっている姿をたくさん見ることができました。

私自身、勤務して1年がたち、少しずつ自分で判断して、児童と関わったり指示したりする場面が増えてきました。日々、様々なことが起きる学園生活ですが「決められた日課やルールの中で」「トラブルにつながるように」「その場で判断することの難しさを感じています。児童への声かけや問題行動への対応などに悩む場面もたくさんあります。

児童にとって何が良いのか、考えながら、良い伝え方、良い関わり方ができるように経験を増やしていきたいと思っています。



米子市立福生中学校

いずみ分校

【3年担任 勝部 幸治】

いずみ分校に赴任し、最初に戸惑ったことは、生徒たちが予想以上に「やり方が変わる」ことを嫌がったことである。「変わる」ことにうまく適応する自信がないのである。あせらずゆっくりとコミュニケーションをとりながら、関係を築いた。そんな中でも、大事にしたことは、「いけないことはいけない」ときちんと伝えることである。そんなとき、生徒たちはすぐには受けとめることができず、また私との距離は開いた。それでも、寮の職員さんや他の先生方の支援もあって、一つのチームとして関わることで、生徒たちは同じ間違いをすることが、徐々にではあるが、減っていくのだと思う。卒業式を控えた今、何気なく言葉を交わす生徒たちの表情に、たくさん笑顔があふれていることに大きな喜びを感じている。

【3年担任 雑賀 智子】

私はいずみ分校で保健体育の授業を主に担当した。分校での体育授業は全学年合同で行う。生徒数が少ないので教員や寮職員が入ってチームを作ったり、ルールを制限したりして行う苦労もあつたが、人数が少ないからこそできることもあつた。

カヌー実習は大山青年の家に協力頂き、今年度は三回実施することができた。時には陸上競技場に出かけ、陸上記録会を行ったこともあつた。どちらも学校ではできない体験をするのができ、生徒達も楽しんで活動していた。

また、エスキーツニスやフロアカーリングなど少人数でも楽しめるニュースポーツも授業に取り入れた。分校だからできないこともある。しかし、分校で過ごしたからこそ特別な体験ができてよかったと生徒たちに思ってもらいたい。そう考えながら授業づくりを試行錯誤した一年だった。



【2年担任 井上 果奈】

二学期、本格的に二年一組がスタートしました。担任を持つのは初めてでしたので、始めの頃は担任を含め雰囲気安定しない学級で不安なことばかりだったと思います。しかし、初めは鋭かった子ども達の表情は徐々に和らぎ、日毎に笑顔が増えていきました。三学期には学級で賑やかに話す姿があり、四人の成長を感じています。毎日の終学活では、恒例のクイズをするといつもそれぞれ個性で楽しい回答をしてくれます。この個性の強さが二年生の長所でもあると思います。それぞれ課題もあると感じますが、まだまだ課題の多いこの四人が、多くの人に支えていただきながらこれからそれぞれの壁を乗り越えていくことを期待しています。

【英語担当 砂 京子】

昨年十月、私を迎えてくれた子供達は、警戒心をギラギラさせながら、妙に静かで冷やかでした。ここ喜多原学園の子供達は、新しいモノに対して極度に身構え、そして一様に頑なです。

あの日から、一日一日を子供達と過ごしました。褒めたり叱ったり。笑ったり嘆いたり。喜んだり泣いたり。その大切な時間の中で、私は彼らの中にある固い氷を解かしたくて、精一杯温かい心を注いでみました。しかし結果は「表面がほんの少し解けたのかな？」程度。今、そんな気持ちがしています。自分の力量と魅力のなさを痛感しています。

私が最高にうれしいこと、それは子供達が見せる可愛い笑顔や素直な言葉、実直な姿勢です。彼らは、学園の職員・教員に見守られ、明らかにここで変われています。成長をしています。喜多原学園での生活が、各々の人生の転機となり、周囲から愛される人となってくれることを、心から願います。

【体育担当 石田 祐太】

社会人一年目の今年度、教わる身から教える立場となり、初めて赴任したのが喜多原学園でした。これまで生徒たちと授業や行事など、一緒に学校生活を送り、様々な思い出がある中で一番印象に残っている事が、放課後の野球・バレーボール練習です。私は大のスポーツ好きです。ほぼ毎日練習に参



加しましたが、生徒たちがひたむきにボールを追っていく姿や前までできなかった事ができるようになった瞬間などでは歓喜とともに震えるほど感動しました。時には生徒とぶつかる事もありましたが、今となってはそれも一つのいい思い出です。一年間、様々な思い出をくれた生徒たちみんなに感謝です。

米子市立福生東小学校

分教室

【担任 上杉 礼子】

2学期の終業式に着任式をするという初めての経験からスタートした分教室での生活でした。気まずさを感じていた1対1の勉強にも、この寒さにもだんだん慣れてきたころにはもう春の気配が感じられるようになっていきます。

長い時間を教員として過ごしてきましたが、ここで過ごした3ヶ月はわたしにとって貴重な経験となりました。時間をかけてじっくりと話を聞くこと、いくらかためになると思ってもわたしの思いを押しつけ過ぎないことなどに気をつけて、子どものちょっとした成長を見守ることの大切さを実感しました。4月からの成長を見ることはできないけれど、これからも成長しつづけていくことを楽しみにしています。

ある日の食事紹介…(昼食)

- ・ごはん
- ・中華スープ
- ・肉団子の甘酢あんかけ
- ・ポテトサラダ

厨房の職員さんに作っていただいています。



〈 職 員 の 異 動 〉

学園職員

(平成28年3月31日付)

退職	係長	石田 良宏
転任	係長	前田世津子(西部総合事務所地域振興局課長補佐)
	係長	内藤 和宏(倉吉児童相談所相談課係長)
	現業技術員	中嶋 吏(園芸試験場)
育児休業	児童生活支援員	足立 絢加(H27.12.1~H30.3.31)
	児童生活支援員	福田 千明(H28.1.24~H30.3.31)

(平成28年4月1日付)

着任	児童自立支援専門員	山田 政則(再任用)
	児童自立支援専門員	音田 幸政(新規採用)
	児童自立支援専門員	石本 優里(新規採用)
	児童生活支援員	赤井智絵美(育児休業復帰)
	庶務係長	田中純一(療育センター)
	非常勤事務員	濱田 康子(大山青年の家)

分校職員

(平成28年3月31日付)

退職	非常勤講師	上杉 礼子
転任	講師	藤原 洋大(米子市立尚徳中学校)
	講師	雑賀 智子(米子市立啓成小学校)
	講師	井上 果奈(米子市立加茂小学校)
	講師	石田 祐太(境港市立境小学校)
	非常勤講師	砂 京子(米子市立福米中学校)

(平成28年4月1日付)

着任	講師	足立 一輝(新卒)
----	----	-----------

児童在園状況

	小学生		中学生		中卒生		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
H27 4月1日	0	0	4	4	1	0	9
H28 1月1日	0	1	10	4	0	0	14
H28 3月31日	0	1	6	2	0	0	9

編集発行

鳥取県立喜多原学園

鳥取県米子市泉 706

TEL 0859-27-1101

FAX 0859-27-1611